

オンラインウェビナー緊急開催！

2人の活動家が語るウクライナの今

私たちは、今、何ができるのか

3/10(木)  
19:00～20:30

#StandwithUkraine

Shinya Takeda

アムネスティ・インターナショナルジャパン主催  
2022年3月10日 緊急オンラインウェブセミナー

『2人の活動家が語るウクライナの今』私たちは、今、何ができるのか

〈メモ〉徳本光香

## アムネスティ・インターナショナルとは

アムネスティ・インターナショナルは、すべての人びとの人権が守られる世界をめざし、活動しています。

- 1961年誕生。日本支部1970年から
- 世界80カ国を活動拠点として世界中の人権問題に取り組む国際人権NGO。
- 世界200カ国で1000万人を超えるサポーターとともに活動。
- 1977年にノーベル平和賞受賞。
- 人権侵害が起きている国に調査団を派遣、実態を把握。報告書等で世界に発信。
- 中立の立場から、国連や各国、政府に対し、国際法を守り、人権を尊重する政策をとるよう働きかけている。

### どうやって変化につなげるのか

調査      政策提言・ロビーイング      キャンペーン・アクション



ウクライナの人権危機に対応するため、アムネスティは次の活動に尽力しています。

- 写真、ビデオ、衛星画像などを検証し、戦争犯罪や重大な人権侵害行為を糾弾
- 人権活動家をはじめとする危機にある人たちの避難のサポート、一時的な滞在先や生活費の提供
- ロシア軍による侵略を直ちに終わらせ、ウクライナの一般市民を保護するための世界的なアドボカシーとキャンペーンの展開

- ・ こうした活動を継続するためには、皆様のご支援が必要です。
- ・ ご寄付にご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

- ・ ▽ 今すぐ寄付をする  
<http://amnesty.shop-pro.jp/>

### 〈本日の目的〉

- ・今、何が起きているのか？
- ・今、何ができるのか？

実際にウクライナに家族や友人がいるウクライナの方のお話を聴き、何ができるかを模索

**ダリナ・ミジナさん**  
アムネスティインターナショナル・ウクライナのデジタル広報担当(3年目)。主な担当は、活動のデジタル化、セクシュアリティ教育、ジェンダー、メンタルヘルス。「11-A」というアムネスティの活動家Podcast(ネットラジオ)で健全なパートナー関係構築とメンタルヘルスについて配信中。

- ・ **サーシャ・カヴェリナさん**  
5年前に来日したウクライナハリコフ出身のジャーナリスト。Stand With Ukraine Japanの発起人の一人として、渋谷でウクライナ侵略に対する抗議活動やデモを主催してきた。攻撃されている地域に人道的支援が届くように寄付集めなど今できる限りのことを日々行っている。



## February 22, 2022

Putin recognized independence of so-called "People's Republics" of Donetsk and Luhansk in eastern Ukraine.

February 23, 2022

Peaceful demonstration in front of the Embassy of Russian Federation in Tokyo



50  
people



### サーシャ・カヴェリナさんのお話

ウクライナ東部出身で日本に5年います。今回の事態が起こる前はただ普通に生活していましたが、2月22日にすべてが変わりました。ロシアの大統領プーチンがウクライナ東部の2つの地域を独立地域として認めました。すぐ私は SNS でロシア大使館前のデモを呼びかけたら、ウクライナ人以外の人も、50人もあつまってくれました。

## February 24, 2022

Russia invaded Ukraine. Multiple Ukrainian cities hit by air strikes.

次の日にプーチン大統領は特別軍事行動＝ウクライナ侵略行動を始め、複数のウクライナの都市が被害をうけました。

February 26, 2022

Peaceful demonstration in Tokyo, expected 250 people



# 2000 people

Official number of Ukrainians in Japan: 1865 people  
Unofficial: 4000 people



私は、今度は渋谷で抗議デモを呼びかけたところ、250人くらいを期待していましたが、2000人もの方が参加してくれました。この数はとても大きな数です。日本にいるウクライナ人は公式にも2千～4千人しかいませんので。

## More efforts

Launched social media

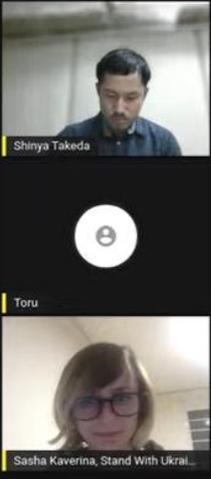


Call for donations.  
Ukrainian Embassy account

Call for volunteers  
150 people applied

Launched a workspace

そのあと私たちは一層努力して、SNS での情報拡散、グーグルフォームを使つてのボランティアの呼びかけをし、150人もの方が応えてくれています。デジタルワークスペースも設けています。寄付の呼びかけも。



## Meanwhile, my parents house is destroyed.

Luckily, they are alive.



Conversation with mom:

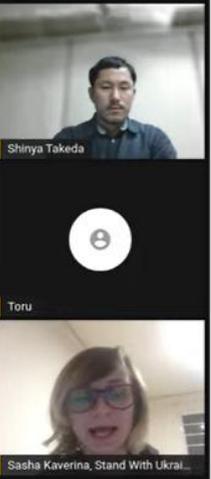
**Me:** Thanks God. Kiss you and dad, love you. Happy you're safe.

**Mom:** If we survive, I will listen to you only. And we will definitely survive. Thank you for your support.

(I urged them to evacuate. They didn't and they won't)



私は東京にいて、こういう活動を組織していますが、私の家族のことが、とてもとても心配です。ウクライナ東部のハーケンという都市で20歳まで過ごしたが、このビルはミサイル攻撃で破壊されました。ここに住む知り合いは、さいわい命に別状はありませんでした。私は母と話すことができました。生き延びられたらあなたの言うことをきくと母は言っています。都心からは20キロ離れていて安全ですが、毎日ロシア軍の空爆は続いています。



March 5, 2022

## Peaceful march in Shibuya, Tokyo

expected 2000 people

**4000 participants, 100 volunteers, 744,000 JPY (5800 EUR) donated**




3月5日、渋谷で改めて抗議デモを呼びかけたら、今度は2000人の参加を期待していたのですが、4000人もの方が参加してくれました。100人のボランティアの方も助けてくれ、74万4000円の寄付を受けました。

# Humanitarian aid

Partnered with NPO Kraiany to send money directly to volunteers and organizations in Ukraine

Marat, Mykolayivna, Kharkiv Lera, Kherson



Sending money almost every day  
By Wise  
(Transferwise)



寄付は人道支援に使っています。カライヤニという NPO と連携し、ウクライナの組織にお金を送っています。上の写真はお金を送っている先のボランティアの人たちで、この活動のことは SNS で発信しています。

## From now on

- Charity fairs with Ukraine-themed goods
- Auctions
- Charity concerts
- Ukrainian movie nights
- Donations



これからやることは、チャリティー、芸術家とかいろいろな制作者が扱う物の販売をして、収益の2分の1をウクライナに送ります。チャリティーイベントも行い、寄付をさらにあつめています。質問などは、スタンドウィズウクライナを通してコンタクトをとっていただければと思います。

## 主催者

私は抗議デモに参加してサーシャさんと会いました。日々日本のウクライナへの関心も強まっています。

## デモの映像内で流れたウクライナの方による日本語のメッセージ

「世界みんなが集まらなと。大きな街、全部破壊されている。それを今やめないと、次は世界の戦争になってしまう。平和だけお願いします」

## 主催者からサーシャさんへ

Q、元々こういう活動をしていましたか？

A、今回がほんとうに初めてです。政治に関して自分から呼びかける滑動をまったくしたことがありませんでした。イベントを企画したことはありますけど、抗議行動を呼びかけたことはありませんでした。今わたしはウクライナから何千キロと離れています。でも私や日本にいる人々ができることは小さなことでも助けになると信じています。

Q、ウクライナの NGO ともやりとりしているそうですが、元々つながりがあったのですか？

A、今まではウクライナの NGO とのコンタクトはまったくありませんでしたが、今は日本で私と行動している人たちは、どういう人にお金を送ったらいいか探しているんです。食べ物や薬や衛生用品などを配布する活動している人を見つけてお金を送りたいと考えているんです。

Q、できるだけ直接物資を送れる方法を探しているんですね？

A、直接の活動をしている人にお金を渡したいです。もっと大規模にお金を集めて送る組織もありますが、状況がとても速く変わっていて、人々は家にとじこめられているので、そういう人たちにとにかく迅速に届ける活動をしている人に直接送りたいと考えています。

Q、次の行動プランは？

A、抗議行動、寄付を募る活動を続けます。その中でウクライナの文化のすばらしさを日本のみなさんにも知っていただきたいとも望んでいます。

Q、大阪や京都でもデモをしています、大阪にすむウクライナ人の方はそれぞれで動いているのか、一緒に動いているのでしょうか？

A、私たちは東京で活動していますが、大阪、京都、名古屋で活動している人とも連絡をとっています。日本でもっと大きな影響を与える行動をできないか考えています。

Q、いろいろ問題はあると思うんですが、集まったときにどういう話をしていますか？

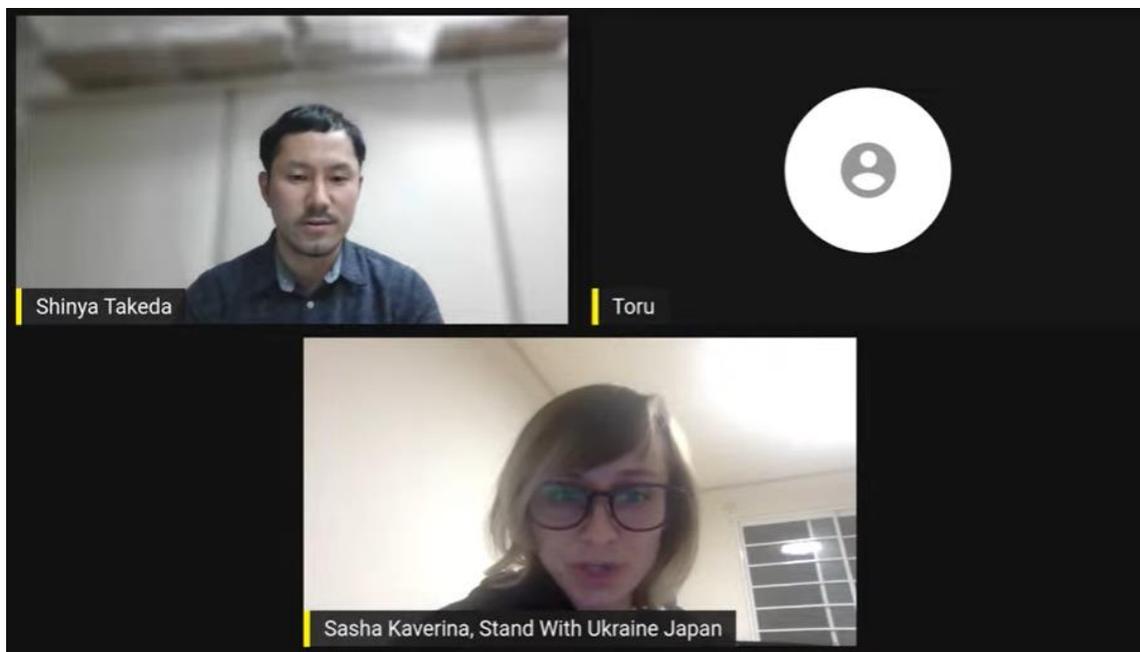
A、日本でこれからどうするか、ウクライナへの支援をどうするか、今どういうことがウクライナで起こっているか、つまり仲間もウクライナ各地にいるので、国全体でどのようなことが起きているか知ろうとしています。

Q、難民の方がどんどん増えていますが、日本も来日ウクライナ人の家族や友人を受け入れることになりましたが、そういう話もしますか？

A、今、とにかく私たちが力を入れていることは、ウクライナにいるウクライナ人を何とか救うことです。200万人が国外に出たけど、全体からすればほんのわずかでしかないんです。様々な困難、恐怖のなかにいます。日本でウクライナから難民受け入れの準備を始めています。まさに今日、アパートをウクライナ難民に無料提供するということを言ってくれているところもあり、そういうことを進めていきたいです。難民が生活できるよう、仕事を見つけられるように支援したいと考えています。

### 主催者

ありがとうございました。在日ウクライナ人の方の気持ちや活動がよく理解できました。同じ日本にいる仲間として協力していきたいと思います。質問はあとで、よろしくお願いします。





## ダリナ・ミジナさんのお話

アムネスティインターナショナル・ウクライナの活動として、デジタルコミュニケーションやデジタルによる活動の周知、ジェンダー、メンタルヘルスについて3年間、活動してきました。ロシア侵略があったときは、たまたま国外でリモートの仕事をしていました。3月はじめに帰国する予定でしたが、今となっちはいつ帰れるかわからない状況です。私の同僚たちはみんな無事です。キエフから出たり国外に出た人も活動を続けています。

今一番力を入れていることは、市民への攻撃、あるいは市民が住んでいる住居への攻撃を戦争犯罪として摘発するための監視、モニター活動です。ボランティアの活動をしている人もいますが、どうしても危険をとまなうので、ウクライナの活動としては人権侵害を摘発し訴えることが中心になっています。

今とても恐ろしいことが起きています。非戦闘民であるふつうの人たちが子どもも含めて殺されています。ふつうの営みがあるアパートや、母親のケアをするような施設が爆撃の標的になっています。

今回の事態の背景として、ロシアのプロパガンダがずいぶん流されてきました。2014年以降、ウクライナの人々の間で国内の紛争が続いていると、ロシアによって情報が流されています。

(ウクライナでは)人権運動で大きな進歩があり、政治や社会面でも公平さ、多様性の尊重が進められてきて、政府もずっと透明度を高めてきました。

今回の侵攻があって、これまで8年間の進歩や改革の努力がすべて台無しになってしまった気がしています。努力や達成したものがすべて台無しにされてしまいました。これをまたやり直して、前進を達成するのにどれだけの時間がかかるかと、とても残念な気持ちです。

国外の、ウクライナの外の世界のみなさんにわかってもらいたいのは、ロシアのプロパガンダのような、ウクライナの中での憎しみあいなどは取るに足らないことだということです。たとえばロシアは、ロシア語を話す人に対してウクライナ人が人権侵害をしていると

言ったりしましたが、それはすべて今回の侵攻の口実にすぎないのです。  
何かお聞きになりたいことがあればお答えします。



### 主催者からダリアさんへ

Q、ダリアさんの個人的な状況をお聞きしたいです。

A、とにかくショックでした。何が起きているかまったくわからない気持ちでした。侵攻の日の朝、起きてニュースを見てロシアがウクライナに侵攻していることを知りました。

私はウクライナにいる家族や友人たちとの連絡をとっています。他の場所とくらべれば安全なところにいます。彼らにどう？と聞くと、「安全(無事)だよ」という答えが返ってくるのみです。「OK」とか「良いよ」という答えはまったくありません。

私は24歳です。ですから友人も同年代の若者です。だからこんなことがなければ若者らしい会話をしたり、コーヒーを飲んだり、将来の話や楽しむ会話をしているはずでしたが、今はそれができません。みんな、とにかく将来のことでいえるのは、とにかくウクライナにとどまり、平和で独立したウクライナを守って、ウクライナを再建することだけです。

でも今はとても強い恐怖のなかで暮らしています。とりわけ実際、夜が危険だし、恐ろしい時を過ごしているようです。いろいろな武器による攻撃の音を聞いただけで、どんな武器かとか、どれくらい近かなどがわかるようになってきています。でもこんなことって、わかるようになる必要のあることではないですよ。



### 視聴者からの質問

Q、お二人への質問です。事態の進展は本当に速いテンポで、日々、一日の中でも変わっています。お二人にとっては予想もできなかったことでしょうか？

サーシャさん

本当にもうショックとしかいいようがありませんでした。その日は一日中泣いていました。今日まで毎日泣いています。でも泣いていても何もならないので、涙をぬぐって何かしようと今の活動をしています。

ダリナさん

アムネステイーウクライナでは、過去3~4カ月、事態がどう進展するか監視して考えていましたが、ロシアがこういう侵略をするとは予想していなかったなので、その朝はとてもショックを受けました。

サーシャさん

侵略に至るまでプーチンはウクライナを侵略することはないと言ってきましたよね。だから、実際に侵略行為をした今ではプーチンを誰も信用しないでしょう。

主催者

今の質問に答えてもらうのはとてもつらいことだったのではないかと思います。視聴者にお話くださったことにとても感謝しています。

Q、こんな事態になり、ウクライナにいる人々の状況や声を聞きながら、どうやって気持ちを持ちこたえていらっしゃるのでしょうか。

ダリナさん

私が気持ちの支えとしているのは、独立国ウクライナに帰国して、そしてウクライナをよくするのに加わるんだという気持ちです。

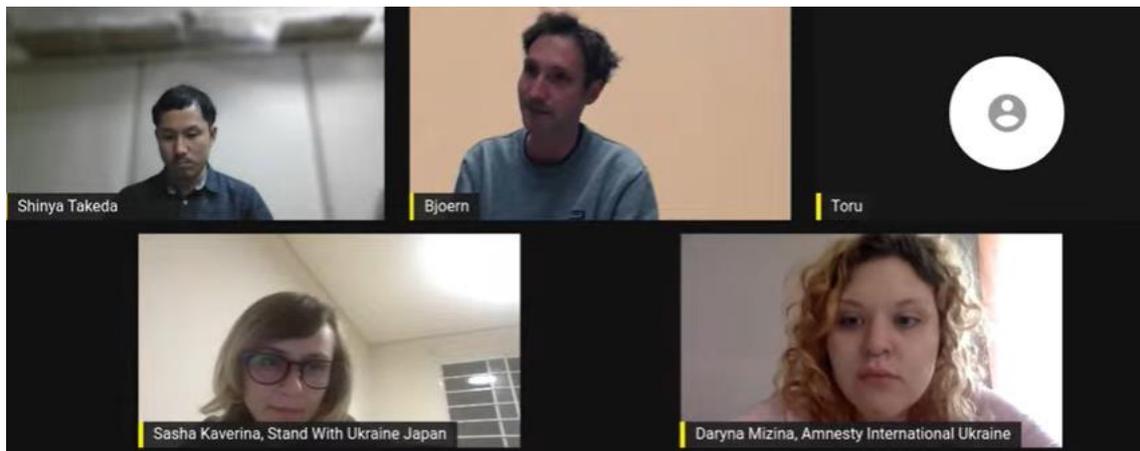
サーシャさん

私の気持ちを支えてくれているのは、私の活動に対して理解を示し、支援をしてくれる方々が多くいらっしゃることです。ウクライナの人々に対してもとてもあたたかい想いを寄せてくださっていることです。そして、活動の成果も出ていることです。支援を送ったウクライナの人からも、ちゃんとお金を受け取ったとメッセージがあり、そのお金で食料や生活状態を何とか維持する助けになっていることが、とても支えになっています。本当にほ

んとうにありがとうございます。

#### 主催者

お気持ちを話してくださって本当にありがとうございます。お二人がとても前向きで強い気持ちでいらっしゃることがわかりました。



主催者 次の質問はとてつらいものです。

Q、私は毎日ニュースを聞いています。報道画像も観ています。特に私自身が父親なので、父親が、母親と子どもが避難するときに抱きしめているのを見てとても心が痛みます。今の事態の中で一番心の被害を受けているのはどういう人たちなんでしょうか。

#### サーシャさん

今とても、とりわけあがない状況にあるのは小さな子どもたちと高齢の人たちです。小さな子どもたちは例えば粉ミルクがないとかオムツがない中で毎日耐えて生きています。それからお年寄りたちは、とにかく動くことができない、車でも逃げ出すことができないので、家の中にいて、薬も食べ物もない状況にいます。私の祖母がそういう状態にいます。

#### ダリナさん

私たちアムネスティーで人権擁護、人権推進の活動をしてきて、いつもどういう人たちが人権侵害をうけるのかに注意を払ってきました。こういう状況で危ない状況に置かれる人たちは、平時でも、危ない状況に置かれる人たちです。コロナ禍についても、それが拡大され悪化されているという風に思っています。

もっとも危ない状況のある人々は、高齢の人たちと子ども、加えて障がい者の人々、それに女性。多くの武力紛争のなかで、女性が犠牲になるということがいつも起きてきました。性的な暴力であれ家庭内の暴力であれ。特に敵兵が仕返しとして女性の暴力をはたらくことも、武力紛争ではよく起きていることです。

主催者 最後の質問です。

Q、お二人への質問です。多くの視聴者からの質問です。私たち日本にいる者が、サーシャさんやアムネスティーの活動を支えるためにどんなことができるでしょうか。

サーシャさん

ひきつづき、寄付をお願いしたいです。もうひとつ、日本の会社や企業の中には、全世界で仕事をしている企業がたくさんあります。そういった企業がロシア市場から撤退することに向けて、圧力をかけてほしいんです。日本の企業はあまりそういう態度を示していません。ついさっき、ユニクロがロシア市場からの撤退を表明しました。これは世論の圧力を受けて決定したと思います。ですから、ロシア、私たちの敵国を助けないよう圧力をかけてください。

これからは、お金を募るだけでなく、人道支援のための資材、物もウクライナに送りたいと考えています。ウクライナの空港は使えないので、持ち込むのに一番近い空港に日本から送ることを考えています。そのために、日本で資材を集めておく場所や作業に関わるボランティア、企業であれ個人であれ、申し出てくれればという気持ちです。

今日、多くの方々に参加していただいています。もしみなさんの中に、物を作るとか芸術活動をなさる方がいらっしゃったら、チャリティーイベントや文化紹介イベントと一緒に取り組んでいただきたいです。本当にありがとうございます。

ダリナさん

私はアムネスティーの観点からみなさんにお話します。アムネスティーの存在理由、目的は、人道の連帯で世界を変えようということなんです。国境というものでばらばらにならないで連帯していきたいというのがアムネスティーインターナショナルの基本方針です。みなさんぜひ、信頼できる情報源を元に、寄付はもちろんですが、抗議行動にも参加してください。そして、アムネスティーでは、今回の事態に抗議し、停戦を求める請願書を世界中で呼びかけています。何十万人という人がそれに署名してくれています。ぜひみなさんもインターネットで署名に加わってください。

主催者

みなさんありがとうございました。それぞれができること、ボランティアや寄付、物資を置くスペースも協力をいただきたいこと。ちゃんとして情報を出せるのはアムネスティーの力なので情報を発信し、世界で署名を集めていくこと。これはすぐにできることだと思います。この今日のビデオの情報もどんどん拡散してほしいと思います。長い時間、みなさんありがとうございました。それぞれが活動し、いずれどこかでお会いしたいと思います。がんばっていきましょう。



ウクライナに平和を！